

令和元年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

令和元年10月10日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 とみやま助け合い隊
氏名 理事長 小橋 一郎

令和元年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

取組の名称	とみやま助け合い隊 (目的：地域住民の日常生活上の困りごと解決を支援する)	
取組の概要	28年度、小地域ケア会議で「高齢者等住民が抱えている日常生活上の困りごと解決を支援する方法はないか」との議論が浮上。 ニーズを把握すべくアンケートを実施。大多数の賛成を得たのでシステムの構築に着手、30年4月、「とみやま助け合い隊」を設立。 当システムは、コーディネーター(5名が週単位で交代。専用のケータイ電話所持)が住民からの支援要請に応じて、サポーター(登録リストあり)を斡旋するものである。 有料。 (サポートに要した時間を基準、30分以内300円、10分増すごとに100円加算)。 同年10～12月一部町内で試験運用を実施。本年1月より本格的に運用を開始した。8月末サポート実績：79件	
協働団体	富山学区連合町内会、富山学区地域協働協議会、富山地区社会福祉協議会、富山地区民生委員児童委員協議会、富山学区愛育委員会、富山学区婦人会、富山学区栄養改善協議会、富山学区老人クラブ連合会、岡山市社会福祉協議会、富山地区社会福祉協議会、岡山市市民協働企画総務課(富山公民館)、岡山市中区地域包括支援センター、岡山市中区保健センター、岡山市ふれあい介護予防センター、富山公民館、山陽学園大学	
取組の実施期間	始期：平成28年 4月～	<input type="checkbox"/> 令和 年 月 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 令和 年 月 頃 終了 予定 ※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。

●次の書類等を添付してください。

①〔様式1〕協働による社会課題解決の取組の内容

②〔様式2〕取組実施団体概要書

③写真等取組イメージ画像の電子データ(1枚)

インターネット投票を行う際にエントリー一覧に使用します。エントリー一覧は、応募順(事務局受付順)に掲載します。

④取組内容や成果、協働の役割などをわかりやすくまとめたシート(A4またはA3)1枚

シートをもとに、事務局でポスターを作成し、展示等を行います(シートの作成が技術的に困難な場合は早めにご相談ください。シートづくりをお手伝いします。)

⑤その他取組の説明資料：A4で2ページ以内で添付できます。

※提出していただいた書類等はすべて審査の対象となり、〔様式2〕以外は原則、ホームページ等で公開します。

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	とみやま助け合い隊
令和元年度募集テーマ	すべての人に健康と優しさを SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を
テーマとの関連	地域住民が抱えている様々な困りごとを、同地域の住民（サポーターとして登録）が支援し解決する取り組みである。 現在46名が主旨に賛同、サポーター（8月末現在）として登録している。これは、住民の「やさしさ」の表現に他ならない。支援依頼者からの感謝を聞いて、「喜んでもらえた。役に立って、よかった！」と語るサポーターは、多い。誰もが持っている「やさしさ」の表現とそれに対する素直な「感謝」、これらが、随所に見られる！そんなまちを作りたいと願っている。
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>（目的） 地域住民が抱えている日常生活上の困りごとを、同地域の住民（サポーター）が支援し解決する。これにより、一段と住みよいまち・いつまでも住み続けたいまちを作ること、それが目的である。</p> <p>（課題） ・高齢化率（8月末 31.3%）の高まりにつれて、独居高齢者や高齢者のみ世帯が増加している。中には、体力・運動能力の低下から自力のみでは、日常生活がままならないケースも見られる。 ・若い世代では、共働き世帯が増加している。そこに子育てや老親の世話等が重なると、時には、日常生活に支障をきたす。 住民は年齢を問わず、いろいろな困りごとを抱えている。これらをいかに解決するかは、まちづくりに当たって無視できない問題である。 「包括支援システム」の構築こそが、この問題解決に有効と判断した。</p> <p>（ニーズの把握） 本システム構築に当たって、住民のニーズを確認すべく、アンケート（全世帯対象、回答率 43.3%）を実施した。主たる回答は、下記のとおり。 ・問：日常生活の支援システムは必要か → 回答：必要である 66.9% ★希望する支援として、草取り、家事、付添、買い物代行をあげる回答が多かった。 ・問：システム立ち上げの場合、利用するか → 回答：利用してもよい 54.7% ・問：支援要員（サポーター）としての登録 → 回答：登録してもよい 32.3%</p>
取組の内容	<p>1 取組の対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域 富山学区 ・対象者 住民中の日常生活での困りごとを抱えている人（独居高齢者、子育て中のママさん等） ・対象人数 約 5,500世帯 約13,600人 <p>2 活動内容、実施方法など</p> <p>①とみやま助け合い隊の仕組み</p> <pre> graph TD A[困りごと支援・依頼者] -- ① --> B[コーディネーター 080-3051-0111] B -- ② --> C[サポーター (事前登録済み)] C -- ③ --> A C -- ④ --> A C -- ⑤ --> B </pre> <p>（説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①困りごと支援依頼者 → コーディネーターにTEL ②コーディネーター → サポーターを斡旋 ③サポーター → 支援依頼者と日時等打ち合わせの上、支援を実施 ④依頼者 → サポート料を支払う ⑤サポーター → 支援の終了を報告（内容・時間・料金等）

- ★特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業・・・対象外
 - ★有料・・・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加（1人に付き）
 - ★屋内作業・・・原則2人体制で行う。
 - ★事務手数料・・・サポート料が1000円以上の場合 →20%を事務手数料として、当隊に振込む。
2. 広報・・・イ. 住民に対する本システムの概要・利用方法の周知 チラシを全戸配布した。
ロ. マグネットシート（電話番号、受付時間、休日等記載）を全戸配布した。
ハ. 「とみやま助け合いだより」（仮称）発行（9月、3月 年2回）
 利用例・利用状況、決算報告等を掲載
 3. コーディネーター会議を開催（原則：毎月）
 ・運営、利用状況を検証。課題を発掘し、システムの改善を不断に図る。
 4. サポーター募集・説明会・研修会開催（7月 2回実施した）
 ・サポーターを増員（目標50名）し、地域的偏在を是正する。サポーターの意志統一を図る。
 5. 理事会（隔月開催）への報告・・・利用状況、運営上の課題、改善点等
 6. 特別会員（事業所・篤志家、会費1万）の募集（広報を兼ねて）・・・目標 2会員
 7. 「支援活動記録」の全件記載・・・システムの検証・改良に、記録は欠かせない。

	団体名	この取組で果たしている役割
協働団体と その役割 取組の工夫 取組の特徴	富山学区連合町内会	理事長、理事（2名）に就任、企画、運営に参画。 町内会長会議の場を利用して、広報に協力。 ★アンケート、チラシ全戸配布他
	富山学区地域協働協議会	小地域ケア会議の母体
	富山地区民生委員児童委員協議会	理事（2名）就任。事務局長、コーディネーター 定例会の場で、利用状況等につき広報を実施。
	富山学区愛育委員会	理事（1名）就任。 会計担当、コーディネーター 「とみやま助け合いだより」発行担当 定例会の場で、利用状況等につき広報を実施。
	富山学区婦人会	理事（1名）就任。コーディネーター 定例会の場で、利用状況等につき広報を実施。
	富山学区栄養改善協議会	理事（2名）就任。コーディネーター 定例会の場で、利用状況等につき広報を実施。
	富山学区老人クラブ連合会	理事（1名）就任。 定例会の場で、利用状況等につき広報を実施。
	岡山市社会福祉協議会	「小地域福祉活動計画書」作成を補助 「とみやま助け合い隊」チラシデザイン作成
	富山地区社会福祉協議会	理事全員が、当協議会メンバー 企画、運営に参画。会議の場を利用して、広報を協力。
	山陽学園大学	アンケート集計・分析支援
	岡山市市民協働企画総務課（富山公民館）	企画、運営についてアドバイス 広報に協力
	岡山市中区包括支援センター	企画、運営についてアドバイス 広報に協力
	岡山市中区保健センター	企画、運営についてアドバイス 広報に協力
	岡山市ふれあい介護予防センター	企画、運営についてアドバイス 広報に協力
富山公民館	企画、運営についてアドバイス 広報に協力（とみやまだよりに掲載）	
	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点をお書きください。</p> <p>①小地域ケア会議にて 28年度より3年にわたり議論した。 富山公民館、中区地域包括支援センター、中区保健センター、岡山市ふれあい介護センター等の行政窓口も議論に参加した。</p> <p>②「小地域福祉活動計画」策定にあたり、岡山市社会福祉協議会の支援を得た。 また、計画書のレイアウトやデザイン作成に協力を得た。</p> <p>③地区住民のニーズ把握のため、アンケートを実施した。 ・本アンケートの集計・分析について、山陽学園大学のご支援を頂いた。</p> <p>④全町内会（21）に協力を要請した。 ・アンケートの配布、回収 ・チラシ全戸配布 ・サポーター募集等のちらし回覧</p> <p>⑤運用開始前の準備・広報に時間をかけた。・・ ・「とみやま助け合い隊」発足のちらしを配布（全戸） ・テストランを実施した（2ヶ月）・・・福泊川東町内会の協力を得た。 ・サポーター募集・説明会（休日および夜間の2回実施）</p> <p>⑥毎月、コーディネーター会議を開催している。 ・運営上の課題を発掘し、不断にシステムの改善を図るべく心がけている。結果は、理事会に報告。</p>	

<p>成果・効果</p>	<p>1. 8月末の利用状況 利用件数 合計 79件 内訳 草取り・庭掃除 34件 付添（病院・買い物） 23件 ゴミ出し 7件 その他（PC、食事づくり、洋服リフォーム等） 15件</p> <p>2. 一度、利用した支援依頼者は、次回依頼時に同一サポーターを指名するケースが多い。 支援依頼者とサポーターの間（それまで全く顔を見たこともなかった）に新たな絆が生まれた結果であろうか。</p> <p>3. 支援依頼者中には、サポーターに止まらず、事務局にまで感謝の電話をくれる人もいた。</p> <p>4. 現在まで、特にトラブルもなく、本システムは順調に定着しつつあると考えている。</p>
<p>今後の活動 展開 など</p>	<p>1. サポーター登録数を増やす ・住民が、サポーターとして登録すること（やさしさの表現）＝まちづくりへの参加である。 ・サポーターの地域的偏在を解消する。（サポーター不在の町内がある）</p> <p>2. 本システムの持続をめざす（ESDの発想。まちづくりは、持続しなければ意味がない） ・財政基盤の充実をはかる。・自主財源をつくる。例：広告、特別会員、寄附等 ・支援依頼者を広げる。・（例）団体、法人、事業所にも困りごとはある。 ・支援対象の困りごと（ニーズ）を発掘する。・（例）空き家管理、大掃除等 ・NPO法人化をめざす。</p>